

こさい太郎は新党さきがけを離党し、無所属で 港区民のみなさまと

みなとかがやきの同志とともに 活動する決意です

ご意見・ご感想をぜひお寄せください

たろう通信

こさい太郎議員活動リポート

大変御無沙汰を致し、申し訳ございません。去る六月以来、たろう通信を発行することができず、失礼いたしました。まず初めに、心よりお詫び申し上げます。

さて、この度のたろう通信では、新党さきがけの事実上の解党に伴ない、これまでの新党さきがけの活動を振り返る中で、私、小齊太郎の今後の決意をお伝えし、みなさまより率直なるご意見を頂戴いたしたく思います。よろしくお願い申し上げます。なお、みなさまのご意見を参考にさせて頂いた上で、年内には離党の手続きをしたいと思っております。

Dec.1998
Vol.9

編集発行：みなとかがやき
共同編集：こさい太郎を育てる会

〒107-0062

港区南青山 6-13-4-605
Tel:5485-9111 Fax:5485-9100

新党さきがけとの

出会い

私が新党さきがけと出会ったのは、1993年（平成5年）7月、衆議院解散総選挙の直後のことでした。当時、政治改革問題を巡って自民党内が紛糾、新党さきがけをはじめ二つのグループが自民党を飛び出し、結果として三十八年続いた自民党の単一支配に終止符がうたれるという歴史的な総選挙となりました。その後、新党さきがけ公認で初当選した代議士の事務所より誘いがあり、秘書として働くこととなりました。

新党さきがけに

共鳴した理由

新党さきがけの代議士秘書としての経験は、私にとって非常に貴重なものでありました。私が目の当たりにしたその政党は、利益誘導や官僚主導ではなく、日本の将来を見据えた明確な理念に基づく活発な論議があり、具体的な政策立案とその実現を目指す強力な姿勢がありました。さらに、政策決定過程を積極的に国民の前に明

らかにすることも重要視してました。新党さきがけに裏方として関わる中で私は、私自身の住む港区において、新党さきがけの基本的な考え方であった「小さくてもキラリと光る日本」を港区でも実現させたいという思いを強く抱くようになりました。そして、前回の港区議会議員選挙において、新党さきがけの公認候補者として立候補し、多くのみなさまのご期待とご支援を頂き、当選させて

新党さきがけの

取り組み

新党さきがけは結党以来、細川・村山・橋本の各政権に参加して参りました。政権参加の際には政策合意をまとめ、それぞれ政治改革・行政改革・経済改革の特命政権と位置づけ、新党さきがけが連立をリードして

新党さきがけの分裂

きました。その中で、党全体で取り組んだ薬害エイズ問題の真相究明をはじめ、特殊法人の改革や政治家による首相補佐官制度を実現しました。新党さきがけは、歴代の内閣や政治家たちが懸案事項としながら先送りしてきた行政改革や規制緩和・住専問題等の課題を、十分ではない部分はあるにせよ、真正面から取り組み、一定の成果を上げてきました。

衆議院議員の任期満了が近づくと連れ、選挙制度が小選挙区比例代表並立制に移行することが最大の背景となり、新党さきがけ内部でも選挙のための大同団結について議論されるようになりました。さまざまな議論がありました。先の総選挙の直前に新党さきがけは事実上分裂し、民主党が結成され

元経済企画庁長官

田中秀征さん からのメッセージ

日頃、小齊太郎君を温く支えていただいている皆様から敬意を表しております。

彼はいつ会ってはさわやかでみずみずしい好青年です。それは彼が自分の信じる道を自信を持って精一杯突き進んでいる何よりのあかしです。新党さきがけへの対応にみられるように頑固なほど筋を通すばかりでなく、人にも仕事にも誠実に取り組み、抜群のバランス感覚を持っているところは私は高く評価しています。いつまでも現在の姿勢を貫ぬいてほしいと願っていますが、それにつけても、支持者の皆さんには長い目で彼を育てていただくことを期待しております。

田中 秀征

ました。当時私は、たろう通信を通じて、「選挙のみを理由とする結集では新しい日本の方性は示せない。今こそ、新党さきがけは結党の理念を明確に掲げるべきである」と主張しました。

政党全般の状況については、今もほとんど変化がないと認識しています。すなわち、自民党も民主党も、日本の将来像を示す理念に基づく集団ではなく、選挙が最も重要な結集軸となつていゝのです。今後は、理念・政策に基づく再編成が必要で、それができなければ国政の迷走はまだまだ続かざるを得ないものと思ひます。

しかしながら、新党さきがけは総選挙において二議席しか確保できず、衆・参あわせて国会議員五名という小政党になりました。

さきがけ東京の活動

総選挙の結果、国会議員が五名となりましたが、東京地区の地方議員も実質三名となりました。さらに、東京に国会議員はいなくなりました。そこで、新党さきがけの東京支部であるさきがけ東京において、私が幹事長を務めることとなりました。幹事長とは名ばかりでほとんど事務局同様でしたが、小金井市議会議員選挙で推薦候補が一名当選したことも追い風となり、田中秀征先生を講師に招いてのオープンセミナーや講演会の開催、また、中村敦夫さん主宰の演劇とタイアップ、さらに、精力的に街頭遊説や党員集会なども行ない、さきがけ東京として出来得る限り

の活動を続け、新党さきがけの基本的な考え方をご理解いただくよう努力して参りました。

大蔵省の財政・金融分離問題から参議院議員選挙へ

国会議員五名となつたこの時期、新党さきがけが最も力を入れて取り組んだのが「大蔵省改革（財政と金融の分離）」の実現であります。抜本的な行政改革を掲げる新党さきがけにとって、強大な権限を握る大蔵省の信念を持ち、政策の根幹でありました。したがって、閣外協力の絶対条件として、「財政と金融の分離の実現」を自社さき三党の政策合意事項に盛り込みました。しかし、土壇場になつて、大蔵省の意を受けた自民党のなにより振りかまわぬ抵抗があり、国際金融の企画立案は大蔵省に残り、さらに国内金融の危機管理対応も当面の間大蔵省に残すという期限の明示のない先送りといった内容で妥協するに至りました。五人の国会議員で数百人を相手に闘ったわけですから、何も出来ないよりもよかつたと評価して頂く向きもあります。しかしながら、党の政策の根幹であり、命運をかけて闘った最も重大な問題についてでさえ妥協せざるを得ない状況で、今後、国民のみならずの信託に込めることができるのか、実はこの時から、新党さきがけの将来に疑問を感じておりました。

しかし、私はこれまで、新党さきがけの掲げる旗に共鳴し、

多くのみなさまにご支援頂くようお願いして参りました。したがって、この問題も含めて、参議院議員選挙を通じて、これまでの新党さきがけの活動に対する審判を仰ぐことが必要だと判断し、精一杯選挙運動を行ないました。その結果は、比例区選挙で約八十万票の得票を頂きながら、国政政党として、国政選挙で一議席も獲得できなかったのであります。

事実上の解党と離党の決意

この状況をうけ、五名の国会議員は事実上の解党を決定しました。残留するかどうかは、議員を含め党員自らの判断に委ねられ、残留希望の党員の受け皿は、武村・奥村両議員が結成する「さきがけ」（制度上は名称変更）とすることになりました。

私は、今回の決定により、新党さきがけの役割は果たし終えたものと捉えております。しかし、掲げた理念についてはまだまだ実現されておらず、新党さきがけにかかわつた各々が新しいステージにおいて、その理念を展開すべく活動するところが、将来に向けての役割であると確信します。

したがって、私は離党する決意を固めました。これまで、新党さきがけを応援して下さいましたみなさまに改めて御礼申し上げますとともに、このような決意となりまして、このような報告申し上げます。また、私自身、新党さきがけから多くのことを学びました。所

属国会議員のみなさまをはじめ、関係者のみなさまに御礼申し上げます。今後は、これらを糧とし、政治家としての活動に邁進する決意であります。引き続きの、みなさまのご指導・ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

なお、新党さきがけ離党後は、特定の政党に所属せず、無所属の立場で活動して参る所存です。また、港区の議員として、港区民のみならずとも、夢とかがやきのある港区の実現に向け努力いたして参ります。さらには、真に独立した地方政治実現のため、港区の一期生議員三名で「みなとかがやき」という政治団体を結成しております。この地域独自のグループの一員として、仲間を増やしなから、港区政の改革と発展に寄

与したいと考えております。以上、私の決意をご報告申し上げます。何卒、この決意をご理解いただくとともに、ご意見等をご頂戴できれば幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。

編集後記

- ☆ 区議会の活動につきましては、別紙（同封）の「通信かがやき」をご一読頂ければ幸いです。
- ☆ 毎年恒例の夜回りを、地元において十二月二十三日頃よりはじめます。よろしくお願ひします。
- ☆ 次回のたろう通信は、私の四年間の活動報告を中心とした紙面で、一月下旬に発行予定です。
- ☆ ご意見・ご質問等は別紙（同封）にご記入の上ご返送頂ければ幸いです。
- ☆ 去る十月、父他界のため、新年のご挨拶は失礼させていただきます。

参議院議員選挙におけるご支援・ご協力 ありがとうございました

去る7月の参議院議員選挙におきましては、多くのみなさまのご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。また、お礼のご挨拶が大変に遅れましたこととお詫び申し上げます。

さて、新党さきがけにつきましては、本文に掲載した通り、力及ばず議席を得ることが出来ませんでした。応援頂いたみなさまには、ご期待に添えず申し訳ございませんでした。

一方では、東京選挙区において、中村敦夫氏が70万を超える得票で、見事に当選することが出来ました。政治の抜本的改革を求める期待感と、中村敦夫氏の政治への真剣な思いを伝えられたことが、幅広いご支持をいただけた要因と考えております。私も、出来る限りのお手伝いをさせて頂き、応援頂いたみなさまに感謝いたします。ありがとうございました。

今後、中村敦夫氏は、行政の政策決定過程の情報を国民の前に明らかにしていくという活動を中心に、閉塞した国政に風穴を開けるべく活動をされることと思ひます。私も、勉強させて頂きながら、そのような活動に協力して参る所存です。

今後とも、中村敦夫氏の活動にご注目頂き、ご支援を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。以上、ご報告と御礼を申し上げます。